

吉増剛造 Gozo Yoshimasu

1939 東京都生まれ

1963 慶應義塾大学 文学部国文学科卒業

主な個展

- 2025 「吉増剛造展『アイウエオ、ノ、ア!』」 Signal、東京
- 2024 「ネノネ」 Signal、東京
- 2023 「フットノート——吉増剛造による吉増剛造による吉増剛造」前橋文学館、群馬
「普遍言語へ——詩人・吉増剛造の世界展」井上靖記念館、旭川市、北海道
- 2022 「Voix」 Take Ninagawa、東京
「詩人・吉増剛造 芥川龍之介への共感」田端文士村記念館、東京
- 2021 「怪物君」 Take Ninagawa、東京
- 2020 「吉増剛造展 Voix」 artspace & café、足利市、栃木
- 2018 「吉増剛造」 Art Office Ozasa、京都
- 2017 「吉増剛造展」 Shumoku Gallery、名古屋
「涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展」足利市立美術館、栃木;沖縄県立博物館・美術館、那覇;渋谷区立松濤美術館、東京
「吉増剛造 火ノ刺繍—『石狩シーツ』の先へ」(札幌国際芸術祭 2017)、北海道大学総合博物館、札幌
- 2016 「声ノマ 全身詩人、吉増剛造展」東京国立近代美術館、東京
- 2014 「吉増剛造展 水機ヲル日、.....」 テンポラリースペース、札幌
- 2013 「吉増剛造展 怪物君」 テンポラリースペース、札幌
「吉増剛造展 As though Tattooing on My Mind」大和ジャパンハウス、ロンドン
- 2010 「盲いた黄金の庭」 BLD ギャラリー、東京
- 2008 「詩の黄金の庭 吉増剛造」北海道立文学館、札幌
- 2006 「白を襲ねる」ワセダギャラリー、東京
- 2005 「A drop of light」 Galerie José Martinez、リヨン
- 2004 「吉増剛造展 書物のヴィジョン——生涯は夢の中径——」徳島県立文学書道館
- 2003 「ヒカリノオチバ」青山ブックセンター本店、東京
「Poetic Spectrum—Images, Objects, and Words of Gozo Yoshimasu」ロケーション・ワン、ニューヨーク

TAKE NINAGAWA

- 「詩ノ汐ノ穴 Shi-no-shio-no-ana」 photographer's gallery、東京
「一滴の光 1984-2003」城西国際大学水田美術館、東金市、千葉
- 2002 「As though Tattooing on My Mind」 Galerie José Martinez、リヨン
「瞬間のエクリチュール」ポロライドギャラリー、東京
- 2000 「風ノ身体」大阪造形センター・ギャラリー
「パランプセストの庭」ロゴスギャラリー、東京; Galerie Claude Samuel、パリ;
CCI Alsace Eurométropole、ストラスブール、フランス
- 1998 「水邊の言語オブジェ：吉増剛造 —— 詩とオブジェと写真」斎藤記念川口現代
美術館、埼玉
「鯨、疲れた、.....」ギャラリーヴェリタ、東京
- 1997 「心に刺青をするように」ギャラリーヴェリタ、東京
- 1996 「吉増剛造展 百葉 / 界川 / 宇宙函」テンプラリースペース、札幌
- 1994 「石狩河口 / 坐ル」テンプラリースペース、札幌
- 1991 「アフルパルへ」西田画廊、奈良
「アフルパルへ」中森花器店、札幌
「アフルパルへ」ヴォイスギャラリー、京都
- 1990 「火ノ邦ノ螺旋ノ歌」島田美術館、熊本
「アフルパルへ」ギャラリー 1956、沖縄
「アフルパルへ」ギャラリーヴェリタ、東京

主なグループ展

- 2026 「The Ecology of Relationships: The Forest is the Sea's Lover」マルセイユ現代
美術センター
Condo London 2026、Amanda Wilkinson、ロンドン
- 2025 第15回上海ビエンナーレ「花はミツバチを聞くのだろうか？」
AWT Focus 2025「リアルとは？」(監修: アダム・シムジック) 大倉集古館、東京
第36回サンパウロ・ビエンナーレ「すべての旅人が道を歩くわけではない - ヒューマニティの実践」
「新しい南画の世界 - 浜口陽三と後藤理絵、重野克明、染谷悠子、西久松綾、
吉増剛造 -」ミューゼ浜口陽三・ヤマサコレクション、東京
「Blumen」Take Ninagawa、東京
- 2024 AWT Focus 2024「大地と風と火と: アジアから想像する未来」(キュレーション:
片岡真実) 大倉集古館、東京
「One Single Book」ギャラリー小柳、東京
- 2023 AWT Focus 2023「平衡世界: 日本のアート、戦後から今日まで」(キュレーション:
保坂健二郎) 大倉集古館、東京
「15」Take Ninagawa、東京

TAKE NINAGAWA

- 2021 「Poet Slash Artist」 Manchester International Festival、マンチェスター
- 2019 MOT アニュアル 2019「Echo after Echo: 仮の声、新しい影」東京都現代美術館
Reborn-Art Festival 2019「いのちのてざわり」石巻、宮城
- 2018 「Sharjapan: The Poetics of Space」 Al Hamriyah Studios、シャルジャ
- 2017 札幌国際芸術祭 2017「吉増剛造火ノ刺繍——『石狩シーツ』の先へ」
MOT サテライト 2017 春「往来往来」東京都現代美術館
- 2015 信濃の国 原始感覚芸術祭、長野
- 2014 青森 EARTH2014「第二部 縄目の詩、石ノ柵」青森県立美術館
「街かど美術館 アート@つちざわ」花巻市、岩手
- 2010 第2回恵比寿映像「詩をさがして」東京都写真美術館
アートシネマフェスタ奈良前衛映画祭
- 2006 パラチ国際文学祭、リオデジャネイロ
- 2004 「ブラジル・ボディ・ノスタルジア」(with Marylya) 東京国立近代美術館
- 2002 「融点・詩と彫刻による」うらわ美術館、埼玉
- 1996 メデジン国際詩祭、コロンビア
- 1995 「吉増剛造写真展 + 柳澤紀子銅版画展」Yamaha Gallery、浜松、静岡
- 1991 ジャパンフェスティバル 1991、国際交流基金、ロンドン
第21回サンパウロ・ビエンナーレ、Pavilhão Ciccillo Matarazzo
- 1990 「界川游行」札幌

受賞

- 2015 日本芸術院賞・恩賜賞
- 2013 文化功労賞
旭日小綬賞
- 2003 紫綬褒章

主な出版物

- 2024 『DOMUS X』コトニ社
- 2021 『Voix』思潮社 [第1回西脇順三郎賞受賞]
『詩とは何か』講談社現代新書 2641、講談社
- 2019 『裸の common を横切って エマソンへの日米の詩人の応答』(フォレスト・ガンダー・堀内正規との共著) 小鳥遊書房
- 2018 『舞踏言語』論創社
『火ノ刺繍 吉増剛造 2008-2017』響文社
- 2016 『GOZO ノート』全3巻、慶應義塾大学出版会株式会社
『Alice Iris Red Horse: Selected Poems of Yoshimasu Gozo』New Directions
『瞬間のエクリチュール』edition.nord

TAKE NINAGAWA

- 『怪物君』みすず書房
『我が詩的自伝 素手で焔をつかみとれ!』講談社
『根源乃手』響文社
- 2012 『詩学講義 無限のエコー』慶應義塾大学出版会
- 2011 『裸のメモ』書肆山田
- 2010 『木浦通信』(樋口良澄との共著) 矢立出版
『盲いた黄金の庭』岩波書店
- 2009 『静かなアメリカ』書肆山田
『キセキ——gozoCiné』オシリス
- 2008 『表紙 omote-gami』思潮社 [第五十回毎日芸術賞受賞]
- 2007 『死人』JINYA DISC
- 2006 『機——ともに震える言葉』(関口涼子との共著) りぶるどるしおる 60、書肆山田
『アーキペラゴ——群島としての世界へ』(今福龍太との対話集) 岩波書店
『何処にもない木』試論社
- 2005 『Gozo Yoshimasu, a drop of light』Fage Editions 社
『In between 11: 吉増剛造 アイルランド』EU・ジャパンフェスト日本委員会
『アジアの渚で』(高銀との対談集) 藤原書店
『天上ノ蛇、紫のハナ』集英社
- 2004 『長篇詩 ごろごろ』毎日新聞社
- 2003 『詩をポケットに—愛する詩人たちへの旅』日本放送出版協会
- 2002 『The Other Voice』思潮社
『ブラジル日記』りぶるどるしおる 32、書肆山田
- 2001 『剥きだしの野の花——詩から世界へ』岩波書店
『ドルチェ——優しく・映像と言語、新たな出会い』(アレクサンドル・ソクーロフ・島尾ミホとの共著) 岩波書店
『燃えあがる映画小屋』青土社
- 2000 『ことばの古里、ふるさと福生』矢立出版
『賢治の音楽室』(宮澤賢治・林光との共著) 小学館
- 1999 『生涯は夢の中径——折口信夫と歩行』思潮社
『吉増剛造詩集』ハルキ文庫、角川春樹事務所
『はるみずのうみ—たんぽぼとたんぷぶ』(与那覇幹夫・中川潤・宮川耕次・矢口哲男との対談集) 矢立出版
- 1998 『「雪の島」あるいは「エミリーの幽霊」』集英社 [芸術選奨文部大臣賞受賞]
『この時代の縁で』(市村弘正との対談集) 平凡社
『特集・吉増剛造』ハンガー 19、私家版
- 1997 『盤上の海、詩の宇宙』(羽生善治との対談集) 河出書房新社
- 1995 『花火の家の入口で』青土社 [新装版 2001 年出版]

TAKE NINAGAWA

- 『石狩シーツ』 アンジェリカハウス
- 1994 『続続・吉増剛造詩集』 現代詩文庫 116、思潮社
『続・吉増剛造詩集』 現代詩文庫 115、思潮社
- 1993 『木の骨』（城戸朱理との共著）矢立出版
- 1992 『死の舟』 りぶるどるしおる 8、書肆山田
『慈悲心鳥がバサバサと骨の羽を拵げてくる』 りぶるどるしおる 6、書肆山田
『八月の夕暮、一角獣よ』 現代詩人コレクション、沖積舎
『ことばのふるさと』 矢立出版
- 1990 『螺旋歌』 河出書房新社 [第六回詩歌文学館賞受賞]
- 1989 『スコットランド紀行』 書肆山田
- 1987 『透谷ノート』 小沢コレクション 19、小沢書店
『打ち震えていく時間』 思潮社
- 1986 『緑の都市、かがやく銀』 小沢書店
- 1984 『オシリス、石ノ神』 思潮社 [現代詩花椿賞受賞]
- 1983 『大病院脇に聳えたつ一本の巨樹への手紙』 中央公論社
- 1982 『そらをとんだちんちんでんしゃ』（堀口晃との共著）小学館
- 1981 『静かな場所』 書肆山田
『螺旋形を想像せよ』 小沢書店
- 1979 『青空』 河出書房
『熱風 a thousand steps』 中央公論社 [歷程賞]
- 1978 『吉増剛造詩集 1—5』 河出書房
『新撰 吉増剛造詩集』 新撰現代詩文庫 111、思潮社
『太陽の川』 小沢書店
- 1977 『草書で書かれた、川』 思潮社
- 1976 『わたしは燃えたつ蜃気楼』 小沢書店
- 1974 『わが悪魔祓い』 青土社
- 1973 『王國』 河出書房
『朝の手紙』 小沢書店
- 1971 『吉増剛造詩集』 思潮社
『頭腦の塔』 青地社
- 1970 『黄金詩篇』 思潮社 [高見順賞]
- 1964 『出発』 新芸術社

テレビ、ラジオ、映画への出演

- 2022 「眩暈 VERTIGO」（監督：井上春生）
「背 吉増剛造×空間現代」（監督：七里圭）
- 2021 「SWITCH インタビュー 達人達」NHK

TAKE NINAGAWA

- 2018 「幻を見るひと」(監督:井上春生)
- 2016 「断食芸人」(監督:足立正生)
- 2006 「島ノ唄 Thousands of Islands」(監督:伊藤憲)
「柳田國男 詩人の魂」NHK
- 2002 「文学と風土 詩をポケットに」NHK
- 2000 「アーティストたちの挑戦 二重露光・驚きの映像が生む詩」NHK
- 1998 「四国八十八か所」NHK
「ブラジル・赤土とジャカランダへの道—世界・わが心の旅から—」NHK
- 1997 「ETV 特集・漂泊を生きた詩人たち」NHK
「未来潮流 羽生善治・吉増剛造 盤の海、詩の宇宙」NHK
「ETV 特集・知られざる俳句王国ブラジル」NHK
- 1996 「映像作家 ジョナス・メカス ~ OKINAWA・TOKYO 思索紀行」NHK
「現代詩実験室」NHK
- 1985 「あじさいならい」(監督:鈴木志郎康)

シアター公演

- 1998 立川国際芸術祭「Gozo-Opera : san' nai」国際交流基金、東京